

SVC070-P45

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

広範囲で観測された霧島山新燃岳噴火の空振 Mt. Shinmoe eruption: Air-shock waveforms widely observed in Japan

藤原 善明^{1*}, 山里 平¹, 坂井 孝行¹, 小久保 一哉¹, 加藤 幸司¹, 新堀 敏基², 松末 伸一¹

Yoshiaki Fujiwara^{1*}, Hitoshi Yamasato¹, Takayuki Sakai¹, Kazuya Kokubo¹, Koji Kato¹, Toshiki Shimbori², Shinichi Matsusue¹

¹ 気象庁, ² 気象研究所

¹JMA, ²MRI

火山噴火に伴う空振波は、大気中を遠距離まで伝播することが知られており、これまでに桜島（例えば、石原・他（1984））、浅間山（例えば、藤原（2004））等の事例がある。2011年1月26日以降本格的なマグマ噴火を開始した霧島山（新燃岳）で発生した爆発的噴火および連続噴火に伴う空振波を、気象庁が全国の火山に展開している空振計（低周波マイクロフォン、周期特性は0.1~100Hzで平坦）で観測した。

2011年2月に発生した爆発的噴火による空振波は広範囲にわたって記録され、新燃岳から500km以上離れた焼岳、浅間山や伊豆大島など関東・中部地方でも観測された。このことは、空振波の複数の伝播経路、および高層気象による影響を示唆する。

本稿では、2011年の新燃岳の爆発的噴火等に伴う空振の振幅距離減衰、2004年9月に全国規模で観測された浅間山噴火との比較、および伝播の特徴等について報告する。